

# 化粧がストループ検査正答数へ及ぼす影響

健康デザイン学科 4B 氏名：後藤優花 指導：坏信子先生

## 【緒言】

本研究では昨年度に引き続き、負荷作業としてストループ検査〔色名語とそれが書かれたインクの色が異なる色名語「みどり」を呈示し、そのインクの色（赤色）を求めたり、言葉が表す色（みどり）と色パッチを照合することを求める検査〕を選定し、同一被験者にて化粧の有無による正答数への影響について検討した。また、主観評価の結果との相関関係を調べた。

## 【方法】

日常的に化粧をする習慣のある健常女性のうち、毎日きちんとメーキャップ化粧をし、メーキャップ化粧品に興味がある12名（平均年齢 $21.6 \pm 0.4$ 歳）を対象とした。12名のうち6名は素顔の状態ですトループ検査を実施した後に化粧顔ですトループ検査を実施した（図1, グループA）。残りの6名は化粧顔の状態ですトループ検査を実施した後に素顔ですトループ検査を実施した（図1, グループB）。

心理指標GACL（General Arousal Checklist）を用いて化粧の有無での「覚醒度」と「ストレス度」を求めた。素顔及び化粧顔に関する印象や気持ちなどの主観についてはVAS（Visual Analogue Scale）で評価し、ストループ検査の正答数との相関を調べた。



図1. 試験のスケジュール

## 【統計】

ストループ検査の正答数、GACLによる「覚醒度」及び「ストレス度」については、IBM SPSS Statistics（統計処理ソフト）を使用し、素顔（化粧なし）と化粧顔（化粧あり）の間で検定を行った。

ストループ検査の素顔と化粧顔の正答数比較は、対応のあるt検定を行った。また、ストループ検査の正答数と主観評価の間の相関については、ピアソン相関係数の検定を行った。

## 【結果】

- 今回試験に参加した被験者は、主観評価により「化粧が好き」、「化粧に対して興味がある」のVASスケールが $86.9 \pm 12.6$ 、 $87.7 \pm 12.7$ であり、メーキャップ化粧の嗜好性及び興味が高かった（図2）。
- 素顔よりも化粧顔の「覚醒度」が高かった（ $p < 0.01$ ）（図3）。
- 素顔と化粧顔のストループ検査の正答数の間には有意な差は認められなかった（図4）。①化粧顔を他人に見られているときのリラックス状態が低い程、②化粧顔での自信が高い程、及び、③化粧顔での課題集中度が高い程、「（化粧顔での正答数） - （素顔での正答数）」が高かった（①相関係数 $r_s = -0.505$  &  $p = 0.094$ 、② $r_s = 0.553$  &  $p = 0.062$ 、③ $r_s = 0.525$  &  $p = 0.080$ ）（図5）。

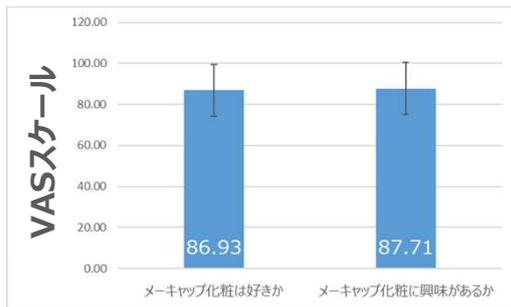


図2. メーキャップ化粧の嗜好性及び興味についてのアンケート

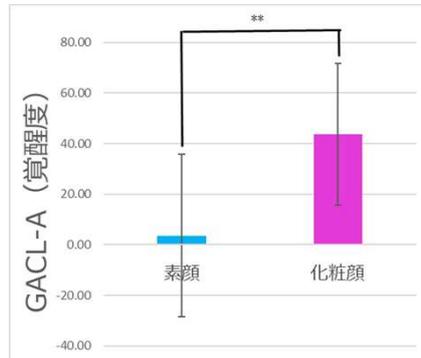


図3. 素顔と化粧顔での覚醒度

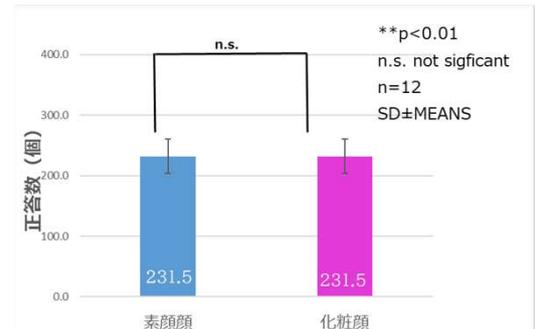


図4. 素顔と化粧顔でのストループ検査の結果（全課題の合計正答数）

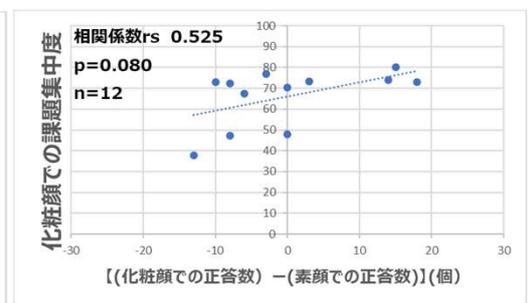
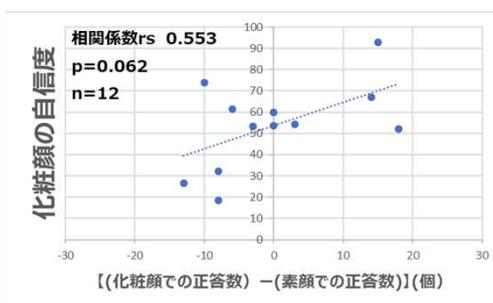
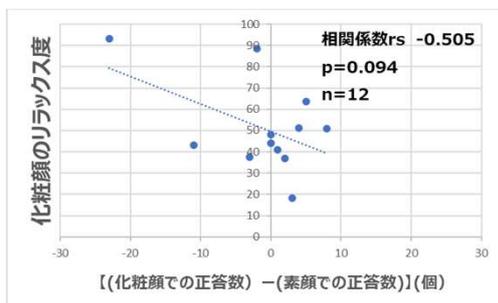


図5. ストループ検査の正答数と主観評価結果の関連

## 【考察】

化粧顔では素顔よりも有意に覚醒度が高かったが、素顔か化粧顔かでストループ検査正答数の差はなかった（図3, 4）。一方、化粧顔での主観と正答数との間にいくつか相関傾向があった。化粧顔を他人に見られている時にリラックス状態が高い程、化粧顔に自信がある程、及び、化粧顔での課題集中度が高い程、素顔のストループ正答数よりも化粧顔の正答数が多い傾向にあった。今回の試験では1日に2回のストループ検査を行ったため慣れが生じてしまい、2回目の正答数が高い傾向があった。1回目と2回目の試験の実施間隔を空ける、異なる負荷作業を設けるなど試験条件のさらなる検討が必要である。

## 【参考文献】

- 阿部恒之, 日比野高. 化粧がもたらす「いやし」と「はげみ」-効用のしくみを考える-. クレアボー. 1997, 11, 2-6.
- 宇山佑男, 鈴木ゆかり, 互惠子. メーキャップの心理的有用性. 香粧会誌. 1990, 14(3), 163-168.
- 松井豊. メイクアップの社会心理学的効用. 資生堂ビューティーサイエンス研究所 (編)『化粧心理学』. フレグランスジャーナル社, 1993, 144-154.
- 箱田裕司. 新ストループ検査 II 手引書. 株式会社トーヨーフィジカル. 2017